

公立大学法人富山県立大学
平成 29 年度の業務実績に関する評価
(案)

平成 30 年 8 月

富山県公立大学法人評価委員会

I 全体評価

(全体としての評価結果)

中期計画の達成に向けて計画どおり進んでいると認められる。

富山県立大学は、平成2年4月に、日本海側初めての工学系公立大学として開学して以来、教育、研究、地域連携等を積極的に推進し、多くの有為な学生を社会に輩出するなど、地域及び産業の振興に大きな役割を果たしてきている。

一方で、少子化を背景とした大学間競争の激化、グローバル社会への対応など、これまで以上に、教育、研究、地域貢献活動を充実・強化し、地方創生の一翼を担い、県民や地域の期待に応える魅力ある大学づくりを推進していくことが求められている。

こうしたなか、富山県はもとより、日本と世界の学術文化の向上と地域及び産業の振興、社会の発展に寄与することを目的とし、平成27年4月に富山県立大学は公立大学法人富山県立大学(以下「法人」という。)に移行した。

平成29年度は、公立大学法人に移行して3年目となるが、初年度から引き続き、理事長及び学長のリーダーシップのもと、責任ある意思決定を迅速に行える機動的な運営に努め、中期計画で定めた数値目標を見据えながら、活気と魅力あふれる大学づくりに取り組んだ、その業務実績は、全体として高く評価できる。

特に評価する事項として、今後再び顕著となる18歳人口の減少を見据え、県内外から優秀な学生を確保することから、県内外での大学説明会の開催や高校訪問、大学見学などあらゆる機会を通して学科の拡充・新設を積極的に広報するとともに、公式SNSの運用開始や高校生が必要とする情報や親しみやすい情報を集約した特設サイトを開設した。加えて、一般入試前期日程における学外試験会場として、北

陸新幹線沿線で首都圏である大宮に会場を新設するなど学生の確保に向けて積極的に取り組んだ結果、入学定員が増加した中で、志願倍率が5倍台に回復したことは、高く評価できる。

また、県内就職率については、県外出身者の学生の割合が高かった中で、低年次からのキャリア教育やインターンシップの充実・強化などにより、前年度並みの実績をあげた。

さらに、平成29年10月からは瀋陽化工大学（中国）の修士生の受入れを開始するとともに、バーゼル大学（スイス）と新たに学術交流協定を締結するなど、国際化に対応する教育環境づくりに積極的に取り組んだ。

そのほか、競争的研究資金の申請に努め、科学研究費補助金については、採択件数、新規採択率ともに前年度を上回ったほか、危機管理については、法人として新たに危機管理規程を整備するとともに、特に必要性の高い災害発生時等の対応マニュアルを整備し、危機管理体制の充実に努めた。

今後の課題としては、平成31年度に新たに看護学部が開設されるが、射水キャンパスは教養科目において看護学部の女子学生も利用することから、その点に配慮した学習環境整備に引き続き取り組むとともに、射水キャンパスと富山キャンパスの2つのキャンパスに分かれることによる課題への対応や積極的なPRによる学生募集活動など、設立団体である県と協力しながら、しっかりと開設に向けた準備に取り組むことが求められる。

また、新校舎や新学生会館の建設など、大学の施設整備の充実に鋭意取り組んでいるところであるが、当分の間、大学内での工事が継続することから、安全衛生管理についてはもちろんのこと、教員や学生にはプレハブ校舎を使用するなどの不便をかけることから、この点についても十分な配慮が求められる。

さらに、学生の県内企業就職率の向上も大学の大きな使命であり、法人も努力しているところであるが、引き続き、企業、民間団体、大学コ

ンソーシアム富山など様々な機関と連携を密にし、取組みを強化していくことが望まれる。

そのほか、教育、研究、地域貢献などについて、大学は意欲的に取り組んでいるところであるが、そのような大学の取組みについて、県内外の多くの人に知ってもらうため、より一層積極的かつ繰り返し情報発信することにより、大学の魅力を広くPRしていくことが求められる。

今回の法人の自己評価による業務の見直しと併せて、この委員会の評価結果を法人の業務運営の効率化等のために積極的に活用し、教育研究の一層の充実や地域社会に貢献する大学づくりを推進することで、中期目標が着実に達成されることを期待する。

II 項目別評価

1 教育に関する目標

(1) 評価結果

評価	S	(中期計画の達成に向けて)特筆すべき進捗状況にある。
----	---	----------------------------

(2) 評価の判断理由

教育に関する目標を達成するための措置として年度計画に記載された76項目のうち、1項目が「IV 計画を上回って実施している」、75項目が「III 概ね計画どおりに実施している」と認められ、すべてIVまたはIIIの評価であることや、優秀な学生の確保に向けての積極的な取組みなどを総合的に検証し、(1)に記載の評価に相当すると判断した。

(3) 特に評価する事項

県内外での大学説明会の開催や高校訪問を強化するとともに、一般入試前期日程における学外試験会場として、新たに大宮会場を設けるなど学生募集活動に積極的に取り組んだ結果、志願倍率が5倍

台に回復した。

(4) 今後の課題とする事項

- ・平成 31 年度に新設する看護学部について、所要の準備を進めているところであるが、引き続き、教育研究環境の整備や学生募集活動等、開設に向けてしっかりと準備を進めていくことが求められる。
- ・学生の県内企業就職率の向上については、法人として様々な取り組みを行っているが、引き続き、企業、民間団体、大学コンソーシアム富山など様々な機関と連携を密にし、さらに取り組みを強化していくことが望まれる。

2 研究に関する目標

(1) 評価結果

評価	A	(中期計画の達成に向けて)計画どおり進んでいる。
----	---	--------------------------

(2) 評価の判断理由

研究に関する目標を達成するための措置として年度計画に記載された 29 項目のうち、すべての項目が「Ⅲ 概ね計画どおりに実施している」と認められ、これらの状況を総合的に検証し、(1)に記載の評価に相当すると判断した。

(3) 特に評価する事項

- ・産業界のニーズの高い分野を強化・拡充した「電子・情報工学科」及び「環境・社会基盤工学科」、新設の「医薬品工学科」について、円滑にスタートが切れるよう着実に取り組んだ。
- ・「知能デザイン工学科」については、ロボット分野の教育研究を充実強化し、平成 30 年度に「知能ロボット工学科」に変更したところであるが、その諸々の準備等を迅速に推し進めた。

3 地域貢献に関する目標

(1) 評価結果

評価	S	(中期計画の達成に向けて)特筆すべき進捗状況にある。
----	---	----------------------------

(2) 評価の判断理由

地域貢献に関する目標を達成するための措置として年度計画に記載された 39 項目のうち、1 項目が「Ⅳ 計画を上回って実施している」、38 項目が「Ⅲ 概ね計画どおりに実施している」と認められ、すべてⅣまたはⅢの評価であることや、国際化の推進についての取組みなどを総合的に検証し、(1)に記載の評価に相当すると判断した。

(3) 特に評価する事項

瀋陽化工大学（中国）の修士生の受入れを開始するとともに、バーゼル大学（スイス）と新たな交流協定を締結した。

4 業務運営の改善及び効率化に関する目標

(1) 評価結果

評価	A	(中期計画の達成に向けて)計画どおり進んでいる。
----	---	--------------------------

(2) 評価の判断理由

業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するための措置として年度計画に記載された 15 項目のうち、すべてが「Ⅲ 概ね計画どおりに実施している」と認められ、これらの状況を総合的に検証し、(1)に記載の評価に相当すると判断した。

(3) 特に評価する事項

平成 31 年度に新設する看護学部について、学内組織や規定の見直しの検討を行ったほか、事務局に看護学部開設準備室長を配置するなど所要の準備を着実に進めた。

5 財務内容の改善に関する目標

(1) 評価結果

評価	A	(中期計画の達成に向けて)計画どおり進んでいる。
----	---	--------------------------

(2) 評価の判断理由

財務内容の改善に関する目標を達成するための措置として年度計画に記載された11項目のうち、すべての項目が「Ⅲ 概ね計画どおりに実施している」と認められ、これらの状況を総合的に検証し、(1)に記載の評価に相当すると判断した。

(3) 特に評価する事項

競争的研究資金の申請に努め、その結果、科学研究費補助金については、採択件数、新規採択率ともに前年度を上回った。

6 自己点検評価及び情報の提供に関する目標

(1) 評価結果

評価	S	(中期計画の達成に向けて)特筆すべき進捗状況にある。
----	---	----------------------------

(2) 評価の判断理由

自己点検評価及び情報の提供に関する目標を達成するための措置として年度計画に記載された4項目のうち、すべての項目が「Ⅲ 概ね計画どおりに実施している」と認められ、積極的な広報の取り組みなどを総合的に検証し、(1)に記載の評価に相当すると判断した。

(3) 特に評価する事項

大学の公式SNSの運用を開始するとともに、高校生が必要とする情報や親しみやすい情報を集約した特設サイトを開設するなどニーズに応じたタイムリーな情報発信に努めた。

7 その他業務運営に関する目標

(1) 評価結果

評価	A	(中期計画の達成に向けて)計画どおり進んでいる。
----	---	--------------------------

(2) 評価の判断理由

その他の業務運営に関する目標を達成するための措置として年度計画に記載された 11 項目のうち、すべての項目が「Ⅲ 概ね計画どおりに実施している」と認められ、これらの状況を総合的に検証し、(1)に記載の評価に相当すると判断した。

(3) 特に評価する事項

新たに法人としての危機管理規程を整備するとともに、特に必要性の高い災害発生時等の対応マニュアルを整備した。

〈参考1〉 小項目評価の集計結果

大項目	評価等	評価対象 項目数 (小項目)	IV	III	II	I
			計画を上回って 実施している	概ね計画どおり に実施している	計画をやや 下回っている	計画を大幅に 下回っている
第1 教育に関する目標を達成するための措置		76	1	75		
第2 研究に関する目標を達成するための措置		29		29		
第3 地域貢献に関する目標を達成するための措置		39	1	38		
第4 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するための措置		15		15		
第5 財務内容の改善に関する目標を達成するための措置		11		11		
第6 自己点検評価及び情報の提供に関する目標を達成するための措置		4		4		
第7 その他業務運営に関する目標を達成するための措置		11		11		
合 計		(※)185	2	183	0	0

(※) 再掲の項目を含む。

〈参考2〉 項目別評価の結果

大項目	評価	S	A	B	C	D
		特筆すべき 進捗状況にある	計画どおり 進んでいる	概ね計画どおり 進んでいる	やや遅れて いる	重大な改善 事項がある
第1 教育に関する目標を達成するための措置		○				
第2 研究に関する目標を達成するための措置			○			
第3 地域貢献に関する目標を達成するための措置		○				
第4 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するための措置			○			
第5 財務内容の改善に関する目標を達成するための措置			○			
第6 自己点検評価及び情報の提供に関する目標を達成するための措置		○				
第7 その他業務運営に関する目標を達成するための措置			○			